

キャラクター名  
アントーニョ・フェルナンデス・カリエド

プレイヤー名

シンドローム	オルクス ハヌマーン		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
	オプション		年齢		性別	男
覚醒	渴望	衝動	飢餓	初期侵食率	31	%
出自	貧乏	経験	脱走	邂逅	借り	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1	1	0			2	行動値	12
感覚	2	0	3			5	(非装備時)	12
精神	2	0	0			2	戦闘移動	17
社会	3	0	0			3	全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃	4		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:	1		情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
拳銃	射撃	5r+4		3		命中-1

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タ イ ム ス	消 費
友人	P 尊敬	N 憐憫		
ライバル	P 同情	N 猜疑心		
ヨハン・C・コードウエル	P 幸福感	N 隔意		
あしながおじさんの噂	P 好奇心	N 猜疑心		
ギルベルト	P 親近感	N 不快感		
フランシス	P 庇護	N 猜疑心		
アーサー	P 親近感	N 脅威		

最大財産P: 6    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
要の陣形	1	3	メジャー		3			
効果: 対象を3体に変更。1シナリオLV回								
妖精の手	1	4	オート	視界	単体	自動		
効果: 対象が判定のダイスを振った直後に使用。対象のダイス目のひとつを10に変更する。一回の判定につき一回。1シナリオにLV回 R2 p153								
エンジェルボイス	3	4	メジャー	視界	単体	自動		
効果: メジャー。クリティカル-1&ダイス+LV個								
声援	2	2	メジャー	視界		自動		
効果: メジャー。ダイス+LV。								
ライトスピード	1	5	マイナー	至近	自信	自動	100	
効果: メジャーを二回行える。その際、クリティカル+1。1シナリオに1回。								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

UGNチルドレン。  
 ゼ・適当ゆるゆる少年。  
 幸福の運び手と呼ばれ、支援を専門としている。  
 しかし、本人はそのコードネームを全く気に入っていない様子である。  
 ギルベルトはチルドレンのリーダーであり、年も近いのでそこそこ仲が良い。後は、攻撃専門と支援専門のため回回がチームを組んだことがある。本人は認めないが、キュマイラと組んだときに1番スムーズに支援できている。  
 仮の姿として学生をしているが、学力はお察し。

※以下独白

小さい頃から何故かずっと満たされなかった。…両親が敬虔な宗教家だったからなのかもしれない。質素、清貧と言えは言いが、いうなればただの貧乏人だ。儲けることの何が卑しいというのだろうか？まあ、当時の俺は親に言われたことは絶対に正しくて、満たされない自分は悪い子なんだと信じきっていた。父親は人格者だったらしいが…今の俺にはただのケチな頭でかち野郎にしか思えない。それでも別に家が…そんな暮らしが嫌だったわけじゃない。ただずっと、何かが足りないという思いが自分の中に燻って、内側からジリジリと身を焦がしてただけだった。そんな俺が、少しだけ楽になれる時があった。それは、毎週母親につれていかれていた教会の礼拝で歌うことだった。神様がどうか信仰心がなんてものはよく分からなかったが、皆と歌を歌うのがただ楽しかった。それが崩れだしたのはいつからだっただろうか、自分の普通が周りや違うと気がつき始めた頃だろうか、それとも、生まれるはずの弟が星になった頃だろうか…父親が酒に溺れるようになった頃だったか…母親が……  
 とにかく、おさえきれなくなった欲望が自分の身からボロボロ零れ溢れて、そして爆発した。